

図表1 補助金と助成金の違い

	補助金	助成金
審査	公募趣旨に即した審査項目と基準にて評価される	原則として要件を満たせば支給される
競争性	高い	低い
使用目的	明確に定められている	一定程度の裁量がある場合もある
成果報告義務	あり (厳しい報告義務がある)	報告義務はあるが補助金ほど厳しくない

図表2 補助金や助成金を検索できるHP・サイト

ミラサポ plus	中小企業庁が運営する「ミラサポplus」は、中小企業や個人事業主が経営課題を解決するための情報を提供するポータルサイトである。経営課題ごとに適した支援機関や施策を検索できる機能が充実している。https://www.mirasapo-plus.go.jp/
J-Net21	中小企業基盤整備機構が提供する総合情報サイトで、中小企業が抱える様々な経営課題に対する解決策を提案している。業種や地域ごとに絞り込んで、支援機関を探ることができる。https://j-net21.smr.go.jp/

図表3 主な補助金・助成金の概要

	対象企業	主な支援内容
IT導入補助金	中小企業	業務効率化のためのITツール導入を支援
ものづくり補助金	中小企業	生産性向上に資する革新的サービス開発・試作品開発・生産プロセスの改善を行うための設備投資を支援
小規模事業者持続化補助金	商工会の管轄地域内で事業を営む小規模事業者	販路開拓や業務効率化（生産性向上）を支援
創業助成金（東京都）*	都内で創業を予定している方または創業後5年未満の中小企業者等	創業時の設備投資や運転資金等を支援

\*各自治体で独自の助成金が設けられている  
(出所) 図表1・2・3ともに筆者作成

# 補助金・助成金の活用は このように アドバイスしよう

金網 株式会社ファイブスター代表取締役/  
中小企業診断士  
事業内容と創業ステージに合った適切な補助金・助成金の選び方とそのアドバイスポイントを解説する。

## 1 創業内容に合った 補助金・助成金の選び方

**創**業者が適切な補助金・助成金を活用するためには、事業内容や創業ステージに合ったものを選ぶことが重要である。金融機関の担当者としては、創業者が効果的に公的支援制度を活用できるように、適切な助言を行うことが求められる。

ここでは、創業者の補助金・助成金の選び方に関して考慮すべき重要なポイントや具体的なアドバイス方法について解説する。

まずは事業内容や現状等を正確に把握

創業者に適した補助金・助成金を提案する際、まず重要なのは事業の内容や現状、経営者の価値観等を正確に把握することだ。そのためには創

業の動機、提供する製商品やサービス、ターゲット市場、競争優位性、事業規模等を確認し明確にする必要がある。

また、事業がアイデア段階にあるのか、具体的なプロトタイプ段階にあるのか、さらにはすでに市場展開しているのかによって、利用可能な補助金・助成金が異なる。

例えば、アイデア段階であれば研究開発型の公的支援制度、すでに市場に製商品を展開している場合は販路開拓や生産拡大に関する公的支援制度が検討対象になる。

補助金と助成金の違い

補助金と助成金はどちらも企業や個人に対する財政的な支援を意味するが、それぞれに異なる特徴と条件がある。

各創業者に最適な  
補助金・助成金を提案  
受給までの流れ

補助金の申請から受給までの流れは、応募する補助金に

よって異なる。当然ながら、事業者の資金繰りの観点からも申請時期から受給可能日程などを想定することが重要になる。

基本的流れは、申請書類を補助金事務局へ申請し、その後審査を経て採択の知らせ

地域性と対象者の条件

補助金や助成金は地域に特化したものが多いため、創業者の事業所の所在地や活動範囲を考慮する必要がある。地方自治体が独自に提供する支援制度も多いため、国の支援制度だけでなく地域ごとの施策にも目を向けよう。

例えば、地域活性化や地元